

厚生文教常任委員会会議録

- 1 日 時 令和6年10月30日（水）
15時42分開会 16時27分閉会
- 2 会議場所 役場3階 第2委員会室
- 3 出席議員 委員長：川上 均 副委員長：橋本晃明
委 員：山本奈央、桜井崇裕、佐藤幸一、西山輝和（欠席）
議 長：山下清美
- 4 事務局 事務局長：大尾 智、事務局次長：川口二郎
- 5 議 件
(1) 所管事務調査の報告について
(2) その他
- 6 会議録 別紙のとおり

【開会 15 : 42】

(1) 所管事務調査の報告について

委員長（川上 均）：只今より、厚生文教常任委員会を開催する。先程の研修会の後でお疲れのところだと思うが、前回所管事務調査を行った道外研修についての取りまとめも含めて意見交換をしながら、委員会としてどのようにまとめるかを協議したいと思うのでよろしく願う。それぞれの委員から報告書についての説明を若干、概略であるけれどもしていただきたいと思う。

橋本委員：別添のとおりというところのとおりなので、神山町については地域アプリとまるごと高専が所管であるというところで、2点まとめさせていただいた。高齢者にタブレット貸与というところもあるけれども、デジタルデバイドの解消ということで、町民みんなが自分は外れているという思いを持たないようにして、町づくりに取り組むというところから始まったことであるけれども、そういうアプリの活用で公共交通機関というか、免許返納しても暮らしていけるまちづくりというものをトータルでとらえて進めているというところが町の取り組みとしては一貫性があるというところがポイントだと思う。まるごと高専については、とにかく形だけ学校があればいいというのではなくて、実際に求められている人材をつくろうというポイントがしっかりしているというところが重要な点だと思う。梶原町については、小中一貫教育ということで所管事務調査の調査中の項目も入っていたし、その中で4、3、2のブロックに分けてスムーズに小学校から中学校まで教育のステージを移行してという点と、老朽化した部分も整理しながら、やっていけなくなったから統合ということではなくて、前向きに統合して一つの敷地内に収めたというところがここの特徴だと思っている。あとは県立高校への支援ということで、伺っていくうちに大分北海道とは事情が違うという感じがした。もともとは村立の高校だったものを存続させるために公立に格上げして、さらには野球部に特化した支援というか生徒募集で、どんなことがあってもこの高校を残そうというような、そういう意図というものは明らかになっているというように思う。東京都北区については交流している現状というものをさらに発展させて、地方と都会というものを一体とする意識というものを養っていったらいいのではないかなと思う。文書は文書としてポイントはそんなところだと思っている。

山本委員：神山町の方では役場の方から話を聞くことはできて、時間は足りないと思ったが、地域の方の話を聞くことがほぼできなかったのが、地域の方がどれぐらい満足して、以前と今を比べるとどれぐらい何が良くなったのか、良くなったことに対して失ったものももしかしたらあるかもしれないと思ったりもしたし、子供たちの声もまるごと高専に通っている生徒の皆さんの話も聞きたかったし、どのような学びをしているのか見たいという思いがあったので、もっと時間があればゆっくり町の人々の声を聞くことも大切だと思うのでやりたかったと思った。神山町の姿勢が今子供で将来大人になる人たちへ向けて目指す方向がそこにあるので、今大人の人も大事にしているけれども、将来大人になる人たちへの思いをしっかり持ってまちづくりをしているので、そこはいい面だと思った。アプリがあることもいいと思ったり、スマホをまだ持っていない高齢の方にタブレットを支給して、町のことを知ってもらったり便利に生活できることがとてもいいと思ったり、町内のタクシー会社が3社あることにびっくりした。交通の便が悪いのでタクシー会社も必要なのだと思うけれども、清水町にももう少しあったらいいと思う。農村部の方はタクシーが使えるのかというのが知りたいと思った。梶原町の方になるが、建物が全部立派だったので、どのような予算を立てて、どのように支払っていくのかというか、お金の面についてどうなっているのかというのが気になった。町民の方がどれぐ

らい満足して施設を使っているのかというところも聞きたいと思ったが、時間がなかったので少し残念だった。梶原高校野球部の方の入学者が増えてきて、生徒数も増えたということだったけども、将来を見据えて、梶原町に戻ってきてくれることを目標に入学者を増やしているというところまではいっていないというところが課題であると言っていたので、清水町でもホッケーで来てくれる生徒がもしかしたら清水に住みたいという方向に進められたらいいと思った。北区は清水町と環境が違い比べることは難しいけれども、交流することで清水に来る方が増えたら良いし、都会を知りたいという子どもたちが北区に行って都会の暮らしと自分のまちの暮らしを比較できるような取り組みをこれからできたらいいと思うし、親子で来るような機会ができればいいと思う。女性議員が多かったので、もう少し女性議員の方とゆっくり話ができれば、環境の違い、課題などどうしたらいいかという話しをできたらいいと思ったが、今後も交流が続くと思うのでその中で話ができればいいと思う。

委員長：小中一貫の関係では、梶原町が幼稚園、保育所から高校までの18年間一貫教育として人づくりを進めていると言うのは清水とは違うと感じた。トータルで教育を、子どもたちのことを考えていくという部分では、高校も県立でありながら町の中に巻き込んでやるということ自体は参考になるのではないかと思う。高校については神山町も梶原町もそうだが、県立高校でありながら町が全面的にバックアップしているという部分では、町の姿勢というのが危機感があるという中で取り組んでいるというのが見て聞いてわかった部分だと思う。町のホームページの中にも高校がそのまま載っているというのを含めて、町が生徒を募集しているような形でやっているというのはすごいし、梶原町の高校に対する支援、金額的にも約7,000万円近い予算を使っている。清水の人口規模からすると半分の人口なので、そう考えると清水で1億円以上の予算を使ってもおかしくないくらいの予算を使っているという部分では、まだまだやれることはあるのではないかと思って見てきた。そういう部分では、時間があれば山本委員からもあったように色々な人の話を聞いたり、施設自体も見たかったし、そういう部分が駆け足で行って帰ってきた感じなので、少しもったいないと感じた。北区はなかなか住民との交流という部分では難しい面があると思うが、子ども達の交流から始めていくという部分は必要と思ったが、いつまでも続けるのかどうするのか、過去に姉妹町とか熊本の子供たちとの連携交流などが今まであったのが、いつの間にか消えてしまっているという部分では、それはそれでいいが、これも北区や深谷市との交流をいつまで続けるのか、今後の戦略のようなものが必要なのではないかと思う。皆さんから出して頂いたが、まとめについてはどのように進めたら良いか。私と副委員長と事務局で最後まとめるという形で良いか。

（「はい」との声あり）

委員長：全体の調査報告であるが、先般、学校教育課から聞き取りを行った部分の議事録を付けていただいているが、これと合わせた報告を作っていきたいと思うが、これも合わせて作るということではよろしいか。今後12月までには報告書を作るが、あと1カ月皆さんの方から何か小中一貫に関する調査をしたいということであれば、期間は限られるが例えば他町を見に行きたいとか聞きに行きたいということも含めて、私としては学校の先生の話、現場の先生の話も聞いてみたいという部分もあるが、それらを含めて今後どのような形で進めるか、皆さんの方からもしあれば出していただきたいと思う。

山本委員：小中一貫について学校から保護者に説明するとか、教育委員会から保護者に説明するような機会がもし重なるのであれば、一緒に同席して話を聞けるならと思ったが、日程などは確認していないので分からないが、地域の方がどういう反応なのかを知りたいと思った。もし終わっているならどのような意見があったのかというのが聞けたらどうかと思う。

橋本委員：ある程度色々調査したので、1回とにかくまとめて、ここまでの報告を作るということとは、区切りとして必要だと思う。町の考え方というものもあるけれども、北海道として

方向性はある程度変えられないようなところに来ているという感触なので、あとはそれがいかによりよいものにしていくかというところが、対応の仕方としては重要になってくると思う。今まで調べた部分というのはそれとしてまとめる必要があるのではないかなと思う。

桜井委員：本州の方も参加できなかったが、橋本議員が言われたように1回まとめるべきだと思う。教育委員会の町としての方向性を聞くということも一番大事であったと思い、最初に調査をしたということで、その後、先進的なということで本州の方へ行ったということで、1回まとめたほうがいいのではないかなと思う。教育委員会との時には私も出席したが、いつ頃父兄とやるというのは忘れたが、そういったものは確認するという意味ではあってもいいと思う。

佐藤委員：皆さんの言うとおり委員長筆頭にまとめていただきたいと思う。

委員長：おおむね皆さんの方からは、1回これでまとめてという話だったので、今後についてはまたスタートしてから、このメンバーになるかわからないが、新しいメンバーの中でまた取り組んでもらうという形で、いずれにしても前回の教育委員会の聞き取りの部分と調査の部分と、今回の道外研修の調査の部分とあわせて私と副委員長と事務局と協議しながら最終的にまとめていきたいと思うので、そういう方向でよろしいか。

（「はい」との声あり）

（２）その他

委員長：そのような方向で今後進めたいと思う。続いてその他、次回の委員会については、まとめたものをそれぞれ委員の皆さんにメール等で送っていただいて、改めて集まる必要もないと思う。メールを送って確認頂いて、それで最終的な報告としたいと思うがいかがか。

（「はい」との声あり）

委員長：それではそのような形で早急に取りまとめをしながら皆さんのほうに報告したいと思うのでよろしくお願いします。次のテーマをまた次回の時までには考えてもらうような形で。

議会事務局長（大尾 智）：まとめを改めてやらないということになれば、いつもどおり次回は12月定例会の初日になる。

委員長：委員の交代が1月なら次回はもうない。今回で終わり、この委員会メンバーの中の報告は終わりということ。

議会事務局長：通常12月定例会で、次回までのものをやるけれども、メンバーが途中で変わる時は、確認していない。

委員長：それは確認しながらということで。

桜井委員：山本委員が教育委員会でそういう会合を持って、父兄の意見を聞きたいということであったので、もしもあったのであれば山本委員に報告というか、教えてあげてほしい。

委員長：確認をして、あればそれぞれ委員の皆さんに文書で残っていれば文書で送るし、ないのであればそれはないということで。もし説明会やっているのであれば本来議事録があると思うが、4月からスタートだから本来はあってしかるべきのもの。確認してから皆さ

んのほうに報告したいと思う。

橋本委員：この間の模擬議会で高校生的一般質問があつて、所管事務調査ではないけれども、そのときの理事者側とのやりとりというものも感覚として捉えたものもある。

委員長：それは議運の中で整理してもらう形。

橋本委員：議運というか、厚生文教の報告書の中で付け加えることが可能であれば。

委員長：それは議運で整理してそれぞれの委員会でどうするかということ。

橋本委員：一応、委員長と副委員長と事務局でまとめるということになったけれども、その中で例えば予備知識として感じたものがあつたときに、それをそこでいきなり出すというのはルール違反ということではないが、何か違うという気もするので。

委員長：暫時休憩する。

【休憩 16：09】

【再開 16：26】

委員長：休憩前に引き続き会議を開く。高校振興の関係も含めてまとめの中で報告に触れて行きたいと思う。そのような方向で進めさせていただいてよろしいか。

（「はい」との声あり）

委員長：以上で本日の厚生文教常任委員会を終了する。

【閉会 16：27】